

ら計二十一名、なかには合気道の指導的立場にある人も数名おられた様ですが、講習の最終日であったにもかかわらず、疲れも見せず、真剣に学ばんとするその姿勢に感心させられました。

実は、その二日前、欧州での剣道、居合道指導から帰ったばかりでしたが、熱気と真剣な眼差しに、時差ぼけも吹っ飛んで、身の引き締まる思いで指導させて頂いた次第です。多様な流派グループから構成されていること、講習の最終日であり、既に多くの他流派の教授を受けていることから、内容としては、当流の技数本と共に、剣道との関連性、丹田への気のおろし方、呼吸法、肩の力の抜き方等の説明に重点を置きました。

各流派の技や理合の一端を学び経験し、古流武道に対する理解を深めんとする国際部武道講習会の趣旨は貴重なものと思います。

一般社団法人大日本武徳会、さらには国際部の益々の発展を願って止みません。

— 国際部 — 総裁追悼武道講習会体験記

武道執行専門委員 居合道範士 日黒 信良

平成二十六年六月二十四日(火)～二十五日(水)の二日間に渡り、居合道夢想神伝流の指導を京都武道センター・武徳殿にて受け持たせていただきました。

名)、英国(二名)、アメリカ(二名)、ロシア(六名)、等、七カ国か

参加人数は、イタリア・フランス・ベルギー・ドイツ・イギリス・アメリカ・ロシアの七ヶ国、計二十三名であり、内十一名は初心者クラス(以降Aグループ)、十二名は中級指導者クラス(以降Bグループ)であり、よって、A・B二グループに分けて指導を行なう事になりました。Aグループの指導は、今回私の補助員として参加しております小松秀敏氏(彼は我が一門で、初伝・中伝は免許認可、奥伝は免許に近い目録認可と、実力十分な優秀なる人材)に行なっていただき、Bグループを私が指導する事といたしました。

さて、実技に入る前に、A・Bグループ合同で夢想神伝流の始めと終りの礼法、神前(上座)師に対し、お互い(先輩・後輩・同僚)に対し、そして刀に対し、すなわち居合道の作法並びに心得をしっかり学んでいただきました。

いよいよ実技となり、夢想神伝流・目付け・抜付けの横一文字・斬付けの縦一文字・流刀・血振りの両斜・所作・残心・納刀・等々の基本と他流派との違いの部分を含入りに説明して、私が一本目の技を模範で抜き、二人一組六組が私の前で演武、その都度間違いを修正して六組が三回転した所で、次に二人が向かい合い、片側が抜いて対前の人が指摘する、お互いに修正を行ないながら疑問点があれば、私に質問をして私が回答を行なう。

そのくり返しを二度行なった後、再度二人一組で六組が私の前で演武を行い、全員が良しとの見極めで二本目の技に進む。驚いた事に、彼らの覚えが非常に早い、真剣な、そして素直で礼儀正しい学びの姿勢は、感動すらいたしました。一日目にして初伝十二本を修了出来た事は、さすが指導者クラスであり、居合道経験者である事だけの事はあると思いました。

二日目は、前日のおさらいを一通り行ない、私から本日中伝を行ない